

平成28年12月議会は12月2日から9日にかけて行われました。

今任期最後の議会も30分枠で一般質問に立ち、若松のまちづくりを中心に質問させていただきました。質問項目と主な内容は以下の通りです。



(一般質疑)

若松区のまちづくり

①九州実業団毎日駅伝について

Q.以前質問させていただいた九州実業団毎日駅伝が、昨年までの福岡市中央区から北九州市小倉北区にいたるコースから、今年度は若松区を中心としたコースへと変更され、さる11月3日に開催されました。

晴天の元、スタート会場である本城陸上競技場から私はコース上の各所を車で移動して見て回りましたが、各所で出場企業の応援団による旗を立てての応援に加え、市民の応援もすごく、特に住宅街である青葉台は長い上り下りの坂道全体に住民の方々が連なり、ご家族で応援する姿が見られるなど大変盛り上がっていました。脇田漁港フィッシュアリーナも多くの方が集まり、初めて体験する本格的な駅伝を見て「感動した」という声がたくさん聞かれました。市主催の大会ではありませんが、ぜひ来年度以降も本市でやってほしいという多くの声に対し、本市の思い。また、地元から国道199号線を一部だけでもいいので走ってほしいという声が上がっていることについて尋ねました。

A.市長は「主催者から本市で継続して開催していきたいという意向を承っている。199号線を走るコースは交通量が非常に多く、沿線住民等の影響が大きく、多数の交通整理員の確保が困難。まずは現コースでの実績を積み重ねていくことが重要と考えている」とのことでした。今後も頑張ります。

②JR若松駅の無人化問題と新型電車のまちづくりへの活用について

Q.先般、JR筑豊本線で来年3月から、スマート・サポート・ステーションを導入し、若松一直方間の7つの駅を無人化する計画が発表され、特に若松区民の間では不安や動搖が広がっています。私も若松区議員懇話会の皆さんと無人化見直しの要望書をもってJR九州の本社に伺いましたが、残念ながら現在まで再検討はなされておらず現在、若松区の自治総連や障がい者団体、市民団体から無人化見直しの署名活動がなされたり要望書が提出されたりしています。

市として今後どのようにこの問題に取り組んでいくのか、また若松区内で定期券が購入できないことや、障がい者や高齢者が利用される場合の介助・補助、その他さまざまな課題をどのように考えているか。万が一、無人化がなされた場合、実際一般的な無人駅に自治体が人員を配置したり、個人や団体でJR九州と契約して一定の時間人員を配置されているケースもあるようですが、こうした取組みについて、市としてどのように考えるか尋ねました。

加えてJR筑豊本線に、豪華列車「ななつ星in九州」のデザインでもよく知られる水戸岡锐治氏のデザインで地球にやさしい交流架線式蓄電池電車「DENCHA(デンチャ)」が導入され、この新型車両のまちづくりへの活用についても質問しました。

A.市長は、「安全面や利便性への配慮が最も必要であり、現状を維持すべきであるとすでに申し入れを行っている。自治体が人員を配置している例もあることは承知しているが、人員の配置は基本的にJR九州が行うべきと考えている。筑豊本線は市民にとって重要な公共交通機関、市民・JR九州・行政が連携して、安全・快適で多くの皆様に利用される路線になるよう努力する。最善を尽くして頑張りたい。また来年の3月までにすべての車両を「DENCHA」に置き換え若松線のイメージを刷新し近未来的線区にすることで利用促進を図りたいとしており、この環境にやさしい最新の電車の導入をきっかけとして観光や視察など国内外から若松線に多くの方々が訪れていただけるようPR活動に取り組む」とのことでした。重ねて私はいろんな策を練つてとにかく無人化にしないよう強く再度要望しました。

③グリーンパークに滞在型の農業公園やオートキャンプ場をつくることについて

Q.昨今のアウトドアブームで、自然に触れる体験型レジャー施設に人が集まっています。そこで豊かな自然を活かし本市農業のPRにもつながり、宿泊しながら農業を体験できるような農業公園の部分や今後需要の増加が見込まれる、キャンピングカーをとめて宿泊できるオートキャンプ場をグリーンパーク内につくり、本市に多くの観光客を呼び込んでどうか尋ねました。

A.横矢建設局長は「農業公園はグリーンパークの未整備エリアにおける新たな事業を検討するうえで興味深いアイディアと考えるが事業主体や整備・運営方法・採算面など慎重に検討する必要がある。オートキャンプ場の整備については現在旧プレイランド跡地、約3.2haを候補に近隣のオートキャンプ場の利用状況の調査他指定管理者の社会実験などを行い、一定の需要が見込まれることがわかった。今後は民間に委ねる公設民営化方式などグリーンパークにふさわしい事業手法を検討することとし、その中で体験用農地などの施設を併設する可能性も合わせて検討していきたい。」とのことでした。

他にも紙面の都合で書けませんが

- ・北九州市の人口減対策と今後の中小企業の人材の確保について
- ・消防活動用バイクの導入について

6月議会で質問したことが次々に前進、実現しています。

・投票率の向上について

北九州市立大学 ひびきのキャンパスで平成29年1月23日(月)臨時期日前投票所が設置されることになりました。(平成28年の参議院選挙では北九州市立大学北方キャンパスで行われました。今度は地元若松区内で設置されることになりました。(若松区の有権者の方々だけですがぜひご利用下さい。)

・奨学金の返還支援

学校を卒業後引き続きその自治体に住むことや就職することを条件に、奨学金の返還を支援することを検討することになりました。

・先行きの見える発達障がいの情報提供について

北九州市の発達障がい支援情報をフェイスブックで発信、情報交換の場としてご利用いただけすることになりました。ぜひご活用下さい。

Facebook アドレス <https://www.facebook.com/kitakyushu.hattatsushogai/>



「光陰矢の如し」とことわざがありますが、最近特に時が過ぎるのがとても早く感じます。あっという間に子どもも小学校5年生になりました。だいぶ手がかかるようになりましたが、これまでの間子育てと仕事の両立で悩むこともたくさんありました。それでも私は実家の母も夫の母も近くにいてサポートしてもらえたので何とかやってこれていますが、近くに身内やサポートしてくださる方がいなくての子育てと仕事の両立はどんなに大変だろうといつも考えながら子育て支援策を考えます。介護と仕事の両立は先が見えにくいだけにもっと大変かもしれません。以前私も仕事をしている母を中心に20年間祖父母の在宅介護を家族で支えた経験があり、そのことを思い出しながら介護と仕事の両立支援を考えます。多く御相談をお受けしたりこれまでのさまざまな経験したことを活かしながら、それぞれの皆様の立場に立ってこれからも家庭と仕事の両立支援をしっかり充実させて参りたいと思います。皆様のお声をぜひお聞かせ下さい。